

いしづち

2026.7

JULY

No.171



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>

原体験
自分磨きへの道しるべ
建築パース製作実践編 (6)
委員会報告



UE/DA

1	原体験	道上壯／V u A……①
2	自分磨きへの道しるべ 建築パス製作実践編 6)	松山支部 尾崎 光高……③
3	委員会報告	愛媛県建築士会・建築士事務所協会合同親睦ゴルフコンペ報告 総務・企画委員会 前委員長 井上 竜治……⑤ (株)あなぶきデザイン&リフォーム 城戸 誠司……⑤ 総合資格学院 松山校 桑原 美香……⑤ Nostalgia 大西家住宅(松山市古川) 愛媛県ヘリテージマネージャー 野本 博隆……⑥ 愛媛の登録有形文化財 久保家住宅(松山市道後湯之町) 文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹……⑬ 令和7年度活動報告 文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和……⑯
4	支部報告	令和7年度活動報告・令和8年度松山支部総会報告 松山支部 支部長 井上 竜治……⑯ 令和8年度西予支部総会報告 西予支部事務局 渡辺 建文……⑳
5	読者の声	花の木 野本 博隆……㉑

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



透明水彩・色鉛筆・紙

題：「天体観測・せと風の丘パーク」
紙サイズ／F4

せと風の丘パーク(せとかぜのおかパーク)は、愛媛県西宇和郡伊方町(佐田岬半島)にある、美しい自然景観と巨大な風車を間近に望むことができる絶景の展望公園です。
「圧倒的な360度のパノラマ絶景」佐田岬半島の中央部、尾根沿いの標高約300mの丘陵地に位置しています。視界を遮るものがなく、北側には伊予灘(瀬戸内海)、南側には宇和海と、左右に2つの海を同時に見下ろせる日本屈指のパノラマビューが広がっています。
「巨大な風力発電の風車」佐田岬半島は強い風が吹く地形を活かした風力発電が盛んな地域です。パークの周辺や尾根づたいには、数多くの巨大な風車(風力発電機)が連なっており、すぐ近くから見上げることができます。青い海と空、緑の山並みに、真っ白な風車が力強く回るコントラストは圧巻で、近未来的でありながらどこかノスタルジックな独特の景観を作り出しています。
厄介者だった強い風を地域の誇りに変えた、まさに知恵と自然の共生から生まれた歴史を持つ公園です。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「憐リチエルカ」を設立
2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

建築に携わっている人の中には、建築に携わる前に建築的な原体験がある人がある。思い起こせば、僕には建築的な原体験と呼べるものがない。その代わり、スケールの原体験がある。それらが、僕の建築分野での生業に、少なからず影響を与えている気がする。

保育園に通っている頃だ。アーケード商店街の記憶がある。親戚のおばさんが別府への一人旅の際に、八幡浜の僕の家に見せに来た。母と色々話をしている内に、僕もどうかということになり、せっかくだからと保育園を休んで一緒に連れて行ってもらうことになった。余り知らないおばさんとの旅行で緊張していたせいか、旅の記憶はほとんどない。一つだけ覚えているのは、アーケード商店街の光景だ。

早朝のシャッターが降りた人気のない商店街。由紀さおりの「夜明けのスキヤット」（曲名は、小学生の頃、テレビでたまたま耳にして「この曲だ!」と認識して初めて知った）が結構な音量で流れていた。まるでトンネルのように向こうの出口が見通せて、少し寂しい感じと歌とが相まって、遠くの小さな光とそこまでの距離感が、印象的に僕の記憶に残っている。

小学生の高学年の頃だ。暗渠の川の記憶がある。僕の通っていた八幡浜の白浜小学校は、運動場の下に川が流れていた。近くの工場からの排水も流れていたドブ川だ。学校横の川で友達とザリガニやカニ釣りをしていた時に、釣竿を落としてしまい、川に降りた時にたまたま川下の方を見ると遠くに小さな光が見えた。学校の下を潜り抜けた暗渠の川の先の海の光だ。

僕たちは好奇心に逆らえず「行ってみようぜ」グラウンドの下を潜って海まで行ってみることにした。川の深さが足首から膝、膝から腰、腰から胸と増してゆき、首の手前ぐらいになると怖くなって、みんなで慌てて引き返した。多分、グラウンドの下1/4ぐらいの所までは行ったんじゃないかと。海までは辿り着けなかったが、ずっと向こうに見える海面と小さな光とそこまでの距離感が、恐怖心と共に僕の記憶に残っている。

中学生の頃だ。みかん山の上から海と町を見下ろした風景の記憶がある。僕の家はみかん農家で、12月のクリスマス前後はみかんの収穫時期で繁忙期だ。部活を休まされ、とんでもなく寒からっ風に晒されながら、向灘のみかん山で父の手伝いをしていた。友達は部活をしたり、塾や習い事に行ったり、家で炬燵に入ってテレビを見ているだろうに、なんで自分はこんな所で……と思いながらも、目の前に広がるみかん山と海と町の風景を覚えている。

とにかく手も足も体も寒く、やりたくもないことをやらされて、普段酒ばかり飲んでろくろく働いてもないような父に腹を立てながら、渋々とみかんを収穫し、みかんのコンテナを3つほど担いで、麓まで降りてくる作業をただただ繰り返していた。そんな中、山を降りる時に目に入る緑とオレンジのみかん山と、南からの太陽光をキラキラと照り返す海面と、その先に見える小さな町の風景がとても愛らしく美しかったことが、印象的に僕の記憶に残っている。

大学の3年生の頃だ。水平線と地平線の記憶がある。バイクが好きで、バイクに乗りたかったが、家が裕福ではなかったので、自分でバイトをして手に入れるしかなかった。大学1年生の時、バイトに明け暮れてやっと原付の免許と中古の原付を手に入れた。2年生の時、さらにバイトに明け暮れてバイクの中型の免許を取得した。そしてやっと、3年生になる前の春休みに、念願の400ccのバイクを中古で手に入れた。ずっと憧れ続けていたHONDAのCBX400Fというマシンだ。

4年生になると色々と忙しくなり、バイクに乗る時間も無くなると思い、3年生のうちに北海道へツーリングに行く計画を立てた。バイク仲間を誘い、お盆の頃に3人で北海道一周に出発した。広島から舞鶴まではバイクで移動して、舞鶴から小樽まではフェリーで移動した。船旅の途中の日本海で、まわり360°の水平線を目にし、どこまでも果てしなく続く海の風景に違和感を覚えながらも感動した。海しか見えない風景に、ちょっとした畏怖の念を抱きながらも、その初めての雄大さが僕の記憶に残っている。

小樽に着き札幌から時計回りで北海道を一周し、途中の十勝では地平線を目の当たりにした。前も後ろも真っ直ぐに地平線まで延びている道路で、信じられないものを見ているような気持ちで、その果てしない直線の力強さと、あっけらかんとした壮大さを感じた記憶が残っている。

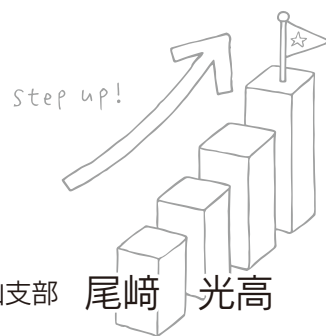
まだ幾つかの体験があるが、どれも建築的な原体験と呼べるものではなく、共通していることは、いつもとは違ったスケール感だ。日常の自分のヒューマンスケールから逸脱し乖離したスケール感に、僕は何か印象的なものを感じ取っていたようだ。そしてそれらが、僕の建築に対する考え方や、建築そのものに対して、スパイスとして効き、エッセンスとして馴染んでいるように思う。

スケール感の体験が、僕の感覚をつくり出したとは思っていない。僕が元々持っていたものを気づかせてくれて目覚めさせてくれたものだと思う。僕の建築がちょっとシンプルで、ちょっと大胆で、ちょっとギョツとするのは、遥か昔に積み重ねてきた眩体験、いや幻体験の副作用の賜物なのかもしれない。

あなたにとってのGen体験とは、どのようなものだろうか？とにかく、日常の中でGen体験にアンテナを張って、機微を敏感に感じとって欲しい。「これは役立つだろう」なんて体験はない。ある時、ふと振り返ってみた時に改めて気がつくものだ。そして、その小さな積み重ねこそが、あなたという個性を磨いてゆくのだ。

建築パース製作実践編 6)

松山支部 尾崎 光高



今回より、各部分の表現方法をご紹介します。一般的な製作順序に沿ってまいります。製作手順①として、どの建物も窓から進めます。参考例としてまずは鉛筆によるスケッチ風な描き方です。



▲住宅パース（鉛筆）

洋風建物ですが、モノクロ仕上の場合にはガラスの反射を表す斜線を入れて、内部のカーテンを描き込む位とします。カーテンは掃出し窓はドレープ状、小さい窓はカフェカーテン風とするなど、建物の種類によって最適なものを選ぶのがコツです（それぞれの違いを理解して組み合わせることで、外観とインテリアがまとまったパースとなります）。トータルバランスが大切です。次はペン画をケント紙にコピーした下図にカラーインク＋水彩絵の具で軽く着色した例です。



▲住宅パース（ペン＋カラーインク＋水彩絵の具）

このパースは30代位に描いた物です。ペン画の場合はガラスの反射は無しでカーテン（影も入れる）、ソファ（家具らしきもの）、出窓の花（赤色のアクセント）、壁と天井のライン（室内の奥行き感を表現）等を入れて内外共に立体感を演出する方法です。ある程度インテリアを表現するだけで内容の濃い仕上がりとなります。次は水彩画の例です。洋風建物の窓部分ですが、色のグラデーションを入れ、左下は和室ですので障子枠と何となく家具があるようなイメージで描いています。2階は洋室ですが全体にグラデーションとし、壁と天井のラインはホワイトで表し、ガラスの反射をホワイトで強調して照明器具

を足し、最後にサッシ枠を入れて完成です。感覚的にホワイトフリー線等入れています。水彩画の場合は外壁、影部分にもグラデーションを入れて単調にならないようにするのが良いと思います（太陽光を表していますので窓と外壁の角度は同じとします）。施主にこんな家に住んでみたいと思って頂くことを想定して描くのが大切です。

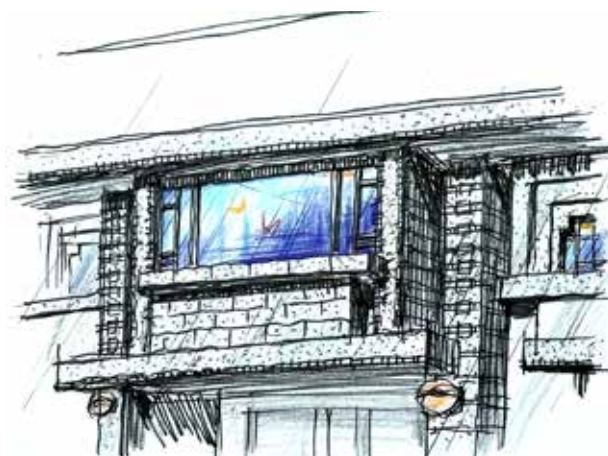


▲住宅パース（水彩絵の具）

次は実例写真に基づいての作図です。



▲淀鋼迎賓館



▲窓の表現（色鉛筆）

ラッシュンペンと色鉛筆でラフスケッチ風に描いた例です。2階の居間部分の窓部分の表現方法ですが、写真では樹木の影が大部分を占め、空が映っていて照明が見えている状況です。このまま描いても良いですし、左下図のように自分なりにアレンジしても良いかと思います。なるべくアレンジする癖を付けるのが上達に繋がります。目線より遠目に空色を塗り、手前側を室内に物があるように濃く塗ります。これも空気遠近法を利用しています。ガラスの反射は斜線を入れての表現としました。グラデーションとの組み合わせにより、ハッキリとしますね。壁と天井のラインもブルー系で入れ、照明器具の色を入れて完成となります。このようなラフな感じで練習を重ねていっても良いです。フリーハンド力大ですね。

次は和風建築の表現方法です。これは復元工事のお手伝いをした時に描いたものです。しばらく入場チケットとして採用頂きました。写真では空が映り込んでいますが、当時は古建築の雰囲気は損なわれないようにガラスの反射は抑えるようにしました。色についても、板戸・木製手摺・柱等が茶系の為、藍色+緑の混色として対比させました。そして、壁と天井のラインがハッキリ分かるように描き、奥行感を強調しました。窓の色を何色系にするかも建物によって使い分けが大事です（設計でも色の対比が大事です）。外壁も斜線状に淡く色を入れております。



▲ 現在改修中の内子座



▲ 内子座パース（水彩絵の具）

次はビルの表現例です。若い頃参考にしていたパース集からの抜粋です。基本的には、表現の考え方は同じです。窓のグラデーションを入れ、壁と天井のラインをクッ



▲ 某ビルパース（水彩絵の具）

キリとし、各階の窓の下部に机等するように濃い色で奥行感を出しています。ポイントとしては角の窓部分の4階部分を一番のハイライトとして、3階、2階と変化を付けています。そして、蛍光灯を消失点に向かって描き込んでいますね。これも奥行感を出す為に必要なテクニックです。外壁もグラデーションを付けて単調にならないようにしています。後、私と違う所は太陽光の斜線を直線で同じ角度ではなく、比較的自由的な表現となっているところです。ここはそれぞれの感性で良いかと思います。最近は建築パースソフトでもA1の技術が凄いです。こんな感じで仕上げてと指示すれば、リアルな仕上がりとなるようです。完成パースを見て驚きました。ただ思うに扱う側が各表現方法に長けていないと駄目のように感じています。まずは基本をしっかり身に付けて頂きたいです。

最後に、以前描いた不老庵に色鉛筆にて着色しました。ちょっと絵画風になりましたが、歴史を刻んできた風格は出せたのかなと思っています。庭木の色は演出効果を狙って赤紫色などを入れてみました。



▲ 不老庵パース（色鉛筆）

次回も部分的な表現方法についてご紹介させていただきます。尚、建築士会HPより、カラー版が閲覧出来ますので宜しくお願い致します。

愛媛県建築士会・建築士事務所 協会合同親睦ゴルフコンペ報告



総務・企画委員会 前委員長 井上 竜治

開催日：令和8年5月26日(火)

場 所：サンセットヒルズカントリークラブ(松山市)

参加者：66人

毎年恒例の合同親睦ゴルフコンペに多くの方にご参加いただき、本当にありがとうございました。

まずは何より、天気をもってよかったですね。数日前から雨予報も出ていて心配もしていましたが、皆さんの日頃の行いが良かったのか、気持ちよくプレーできる天候となりました。そして個人的な話になりますが、なんと自己ベストを更新することができました。自分でもびっくりするくらいうまくいきました(笑)。ただ、上手くいくことばかりではなく、賞品の準備で一部不足するとい

う失態をしてしまい、ご迷惑をおかけしてしまい、本当に申し訳ありませんでした。

また、今回はエイジシュートを達成された方もいて、両会長から賞品を頂きました。本当に素晴らしいことだと思います。ゴルフは年齢に関係なく長く楽しめるスポーツだと言いますが、それをまさに体現されているようでした。私もいつかしてみたいと思いました。

こうして両会が一緒になって、仕事を離れて交流できるのは本当にありがたいことで、ナイスショットや珍プレーも含めて、たくさん笑いのある一日だったのではないのでしょうか。また次回も、皆さん元気に集まって、楽しく交流できればと思います。本当にありがとうございました。

優勝・BMの感想

【優勝】皆さまのおかげで優勝させていただきました

(株)あなぶきデザイン&リフォーム 城戸 誠司

初夏と言うより、まさに「夏」の日差しの中、建築士会伊予支部よりお誘いを受けて初参加させていただきました。

天気は最高ですが、ゲーム中はいつも通り打ったボールに思いは届かず、右へ左へ行ったり来たり、それでも同組のメンバーに励ましていただきながら、なにより沢山のラッキーを繰り返しながら好スコアをマークすることができました。

また、多くの会員の皆様と交流させていただき、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ゴルフの腕前も人間的にもまだまだ未熟ですが、今後どちらも成長できるように精進してまいります。

今回ご参加いただきましたみなさまのご健康と、益々の

ご活躍をお祈りしております。

最後に当コンペを開催された、事務局の皆様には深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

【BM】ゴルフコンペ報告

総合資格学院 松山校 桑原 美香

雨の予報から一転、ゴルフ日和すぎる晴天の中、去年に続き2年連続のブービーメーカー賞を獲得してしまいました(涙)ただ…！前回のスコア172→今回は143と練習の成果が見えてきたことはとても嬉しかったです。

前回から見守っていて下さり、優しくお声をかけて頂いた皆様ありがとうございました！！

また、ゴルフを始めた当初の練習からお世話になっている家久さん、加藤さん、高橋さんにも成長した姿を見て頂けるよう、次回も頑張りますので是非よろしく願いいたします。

次の目標スコアは120台です！

Nostalgia

- 大西家住宅(松山市古川) -

愛媛県ヘリテージマネージャー 野本 博隆

数年前、ある朝起き抜けに嫌な夢を見た。二十歳の時に当時としては最長のローンで買って、50年私の人生の友として何時も手元にあったナナハンを見知らぬ誰かが乗って走っているのだ。とても不快な気分で起きたのだが、私が居なくなってもその機械は誰かを乗せて日本の何処かを走っている…悪くない、ふとそれもありかと考えたら朝日と共に気持ちが晴れて行った。歳を重ね、大きな疾患と加齢による体力の劣化で250kgを超える車体の取り回しに懸念を感じていたその頃、まさか修理に次ぐ修理が続けていたら私よりバイクが長生きするなんて想定すらしていなかったのだが、決して壊してしまおうと思わない私にとってこれが唯一の解決策だと何かに教えられたのだと思う。あるいはバイクからの決別のメッセージだったのかも知れない。結果、京都のとある引き取り手にスクラップにはしないと条件で売却したのだが、これがまた情けない。トラックから降ろして最後にエンジンの音を聞いた途端にいい爺さんが大泣きで、いくら我慢しても涙が止まらないのだ。たかが鉄の塊に。とても辛かった。

閑話休題。去年の今頃、松山市内の古川の県道を走っていて、おやと思った景色があった。

令和7年のこの松山の平野部に、江戸末期の物と思われる個人住宅が建残っている様に見える。どうも静かにその使命を終えようとしている様だ。多分何人も振り返らないであろうその建物は、取り立てて権力を誇示している物でもなく、経済や富をけん引した痕跡も無い。ただ現代まで何代にも渡って個人の暮らしを包んで来たのだろう、いくら温暖な道後平野の一角でも長い風雪の日々と地震に耐えその暮らしを支えた「物」としての機能と、それを作った職人さんの偉業に、自分も家を作る事で生涯食べてきた私は敬意を持たざるを得ない。

所在地は松山市古川西、当代当主は大西守半さん。飛び込みでお尋ねし話をさせてもらったのだが、お位牌から察するに明らかに江戸時代の元禄頃からここに在して

おられる御一族で、当代と先代は昭和39年より布団製造と農業を兼業されておられた様だが、それ以前は口伝による限り百姓であり農業が生業であったそう。確かに建物は典型的な松山平野部における百姓屋である。と、見えたのだが……。



一寸驚いたのは、話をしている内に御当主曰く、御先祖さんが「郷筒」と言う言葉が飛び出して来た。許可を得て建物を見せてもらおうと、玄関から見える上がり座敷の正面の梁鴨居に武具掛けが組み込まれていて、なんと長柄の槍が埃をかぶって飾ってある。眺めてみると腕



木は後で取り付けた物ではなく、ちゃんと切組にて組付けてある。しかも腕部のスパンは広く、多分弓も飾ってあったのではと想像できる。ただ、受け俱の木材そのものは松の板を加工細工した物の様だ。しかし槍は本物ら

しい。柄の長さは11尺8寸。錆びてはいるが檜尻も彫金にて細工がしてあり穂先は5寸5分三角断面の突き檜の様。なるほど村方の役をされていた御一族かと状況的には納得できる。建物を壊して無くなる前に図面化させて欲しいと申し出たら快諾を得て、間もなく解体が迫ると言うこの建物、せめてこの世に存在したという証拠に意匠図の作成を試みた。作図はすぐ出来るのだが確実な確証をと思い、古川近辺の古文書があれば役職をされていた人物の確認ぐらい出来ると軽く思っていた。が、これが無い。重信川と石手川の合流点が近い古川は度々洪水があり庄屋・寺院などの個人古文書がなかなか残っていないのだそうだ。しかしムキになって調べると、久米郡全体の記録内にここ大西家のご先祖の半右衛門さんが組頭として出てきた。お位牌の行年と記録の年代が整合する故間違いなからうという事になった。当大西家は彼の今村久兵衛亡き後1630年以降、古川村にて庄屋を務めた大西本家からの分家なのだそうだ。それなら尚更、村方の役処を担っていた事がより真実味を持つ。ならば「郷簡」もありであろうし武具が残っている農家家屋としても不自然ではない。久米郡手鑑等では古川村の庄屋名が数人確認出来、明治維新後には大西本家の祖である大西平太郎様の名が里正リストに残されている。つまり大筋で村の自治に関わっておられた一族だった様だ。ちなみに今村久兵衛の伝承だが、私が読ませていただいた限り、長徳寺に残る慰霊施設の伝承とそれを含めた調査結果の論文が伊予史談42号に御園生竹崖先生によって発表されていて、今から丁度100年前の調査論文ではあるけれどもその範囲が全ての様であり、本報告の大西両家との繋がりは確認出来ない。久兵衛の卑属は事後村外追放となり現川之江市で過ごされ、後の代にて江戸時代中には松山に帰郷されたとなっている。余談だが、私が時折出入りさせて貰っている堀江地区にも全くと言っていいほど同じような記録がある。西山五右衛門道周、要因も罪状も受刑年度も同じ。江戸時代の初期、要は見せしめ行政が真っ当なる時代、蒲生忠知の統治による世の事、他の地にも探せば同じ様な話があるのやも知れない。

さて建物は、明治大正昭和と生活に即応するべく修理改造が繰り返され今に至っている。複数の家人がそこで育ち巣立ちその度に改修がなされて、原型から大分膨らんでいる。現況の図面を作図してから「元々はどの様な？」と推察した図面も作ってみた。現況では全てに天井が貼られているが、一度天井裏に入るとそこにはタイムトンネル化したと思える空間があり、すすけた上具や漏水により蟻にやられた梁等、建物の時との戦いの痕跡が見て取れる。社寺程の重量では無いにせよ垂直部材の圧壊等も見受けられ、傾きも大きい。取って付けた様な後付け小屋組みを削除してまだ松脂の光る真っ黒の梁や壁のラインを拾って行くと、典型的な江戸期の、それも末期の百姓家の間取りは多分この様な物だったのだろうと言う田の字の区画がでてきた。遠い遠い昔、まだ物心がついたばかりの私の、樽味町にあった祖母の家のおぼろげな記憶が彷彿と蘇る。特に藁（萱ではない）の屋根裏に居ると何かを思い出す様な錯覚を覚えた。祖母は昭和の後期亡くなるまで箱枕を使っていた人だった。もちろん島田は結ってなかったが！多分この家も新築間もない頃は玄関土間のたたきに立つと小屋裏の真っ黒に煤けたサス梁ややなかの竹が頭上に見えて、無駄に大きいと思える梁が大工さんによって自慢げに組上げられ、小屋土台の



下端まで土壁が塗り上げられた今で言う吹き抜け状の空間があったに違いない。しかも今は天井に隠されているその丸太の渡りの重ね組を貫通する見せる事を前提とし

た様な通しダボは、丸太の段数こそ少ないが松山重文の渡部家の納まりによく似ている。天井裏で鼻と喉を真っ黒にしながら多年の埃と一緒に暫く時を過ごした。しかし残念たる事に私は、これだけでは建設年度を特定できる学識や知見を持たない。棟札とか結構探したが無い。ただ幕末の物に似ているという状況しか提示できない自分の覚束ぬ能力を憂いる。持ち論、当大西家の口伝による「当家は郷筒であった」と言う事と「これは江戸時代の建物である」と言う証言は大きな情報ソースで信じるに値すると思う。出来れば床伏せも作りたかったのだが、現在も稼働可能な布団打ち機などが据えられ、床を剥いてみるのは大仕事になる故遠慮している。床の周囲に取り付く背の高い梁框を見る限り、根太床では無く典型的な梁床だろうと想像するのだが。

今でも地方や山間部へ行くと、管理されている物だけではなく、放置されているものも含めてこの程度の時間経過を持つ住宅はポツポツ残っていて目にする。萱屋根の勾配や部屋の間取りは、同じ県内でも立地風土によって違って、それはそれで私は面白い。職人さんと言う人々は家に求める機能や材料の使い方、選び方、いくら必要に迫られたからと言ってもなかなか知恵が多い、何とかしてくれるのである。少なくとも私よりは発想がいい。施主は不便を訴えて注文するのだろうけれど、それを具現化し解決できる物作りの知恵に感心するのだ。そこには財力に物を言わせた物とか権威の象徴としての彫塑化した物等、それらも人の要求として理解出来るのだが、庶民の日常の小さな我儘が、今も繰り返し繰り返し改良されて利便性が良い方へ進化したつある事、このA I主勢の世に時代遅れの私は手仕事による先への希望を見る。その事にはゴールは無いのだろうとも思う。もう私達世代が行って来た仕事は過去の事になりつつあるが、それに関わったこの半世紀、楽しかったような気がする。

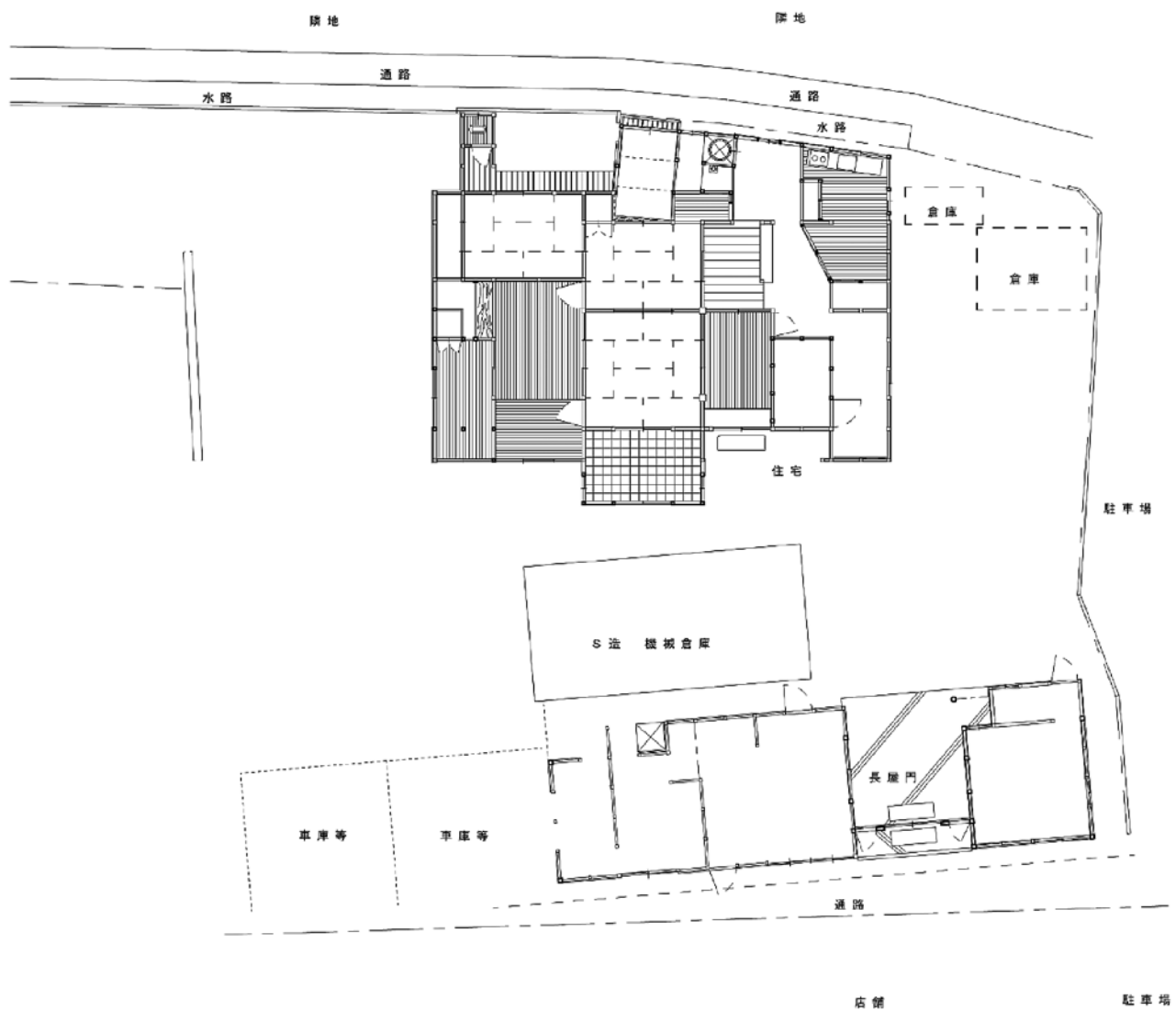
ちなみに門前となる長屋門は明治42年の建設なのだろう。確認書も登記書も無いが、現当主の御婆さんがお生まれになった年に建てたと明確で動かしがたい証言。これも簡単に作図しておいたが、小屋組み等私が知ってい

る和小屋とは違って、藁屋根の梁組の名残かなと思える木組がそこにあった。こうすると、天井が無い時は内部の空間が小屋裏ま で使えて高く広くなる。

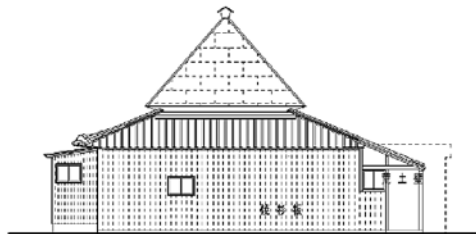


ここ大西さん宅を調査し書類をまとめて居る間、何故かずっと先述の私のバイクが脳裏の中を爆音と共に走り続けていた。

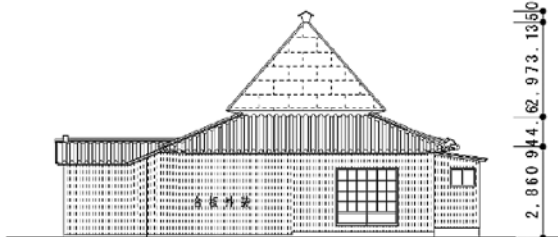
やがて近い将来、約160年以上もったこの建物も、地震に強く、震度7に耐え、化石燃料素材に包まれてはいるが、それでも環境負荷が低く、断熱効果が高いとされる、CO2は出さないゼロエネルギーの、木造なら税務耐用年数22年の一般住宅物理的寿命40年の、高耐久住宅でも寿命75年程度の自治から各種補助金を頂ける、新工法の新築に上書きされていくのだろう。時の流れには逆らえぬが「貴女は良く頑張ったね」と慰労したい。



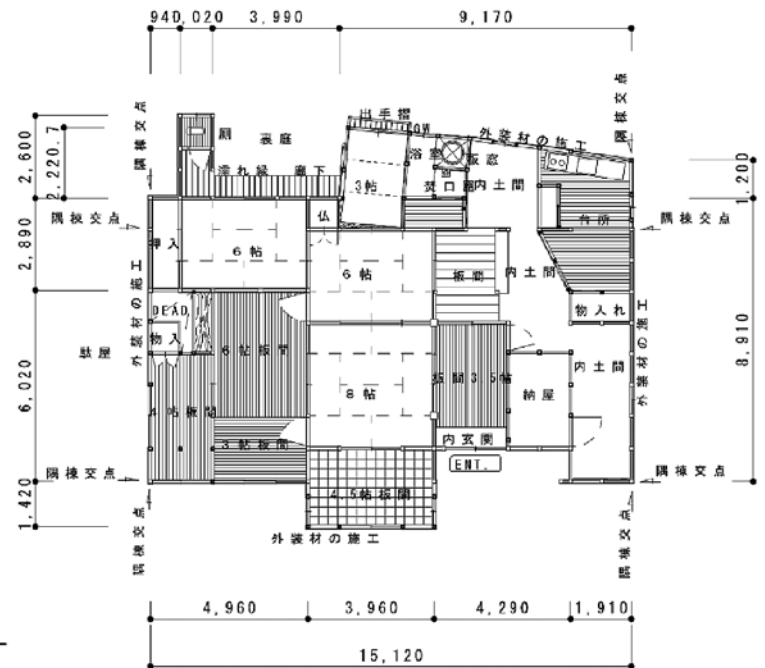
令和7年現存 古川町大西邸 配置図（概略）



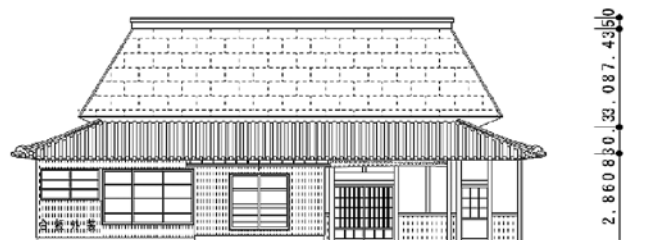
調查時 現況東立面



調査時 現況西立面



令和 7 年 記録時の現況外観図

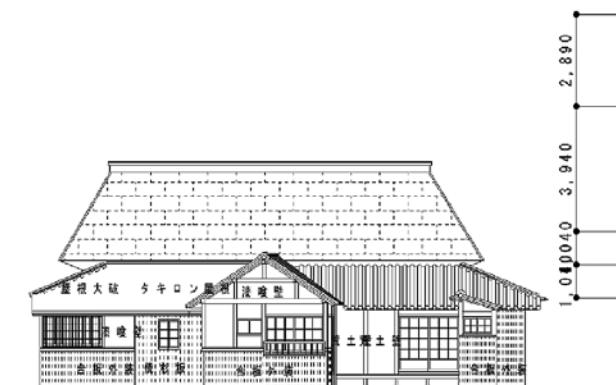
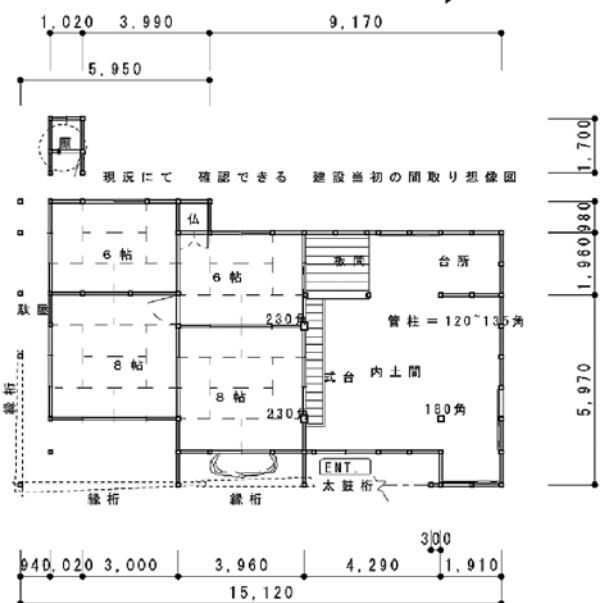


調查時 現況南立面

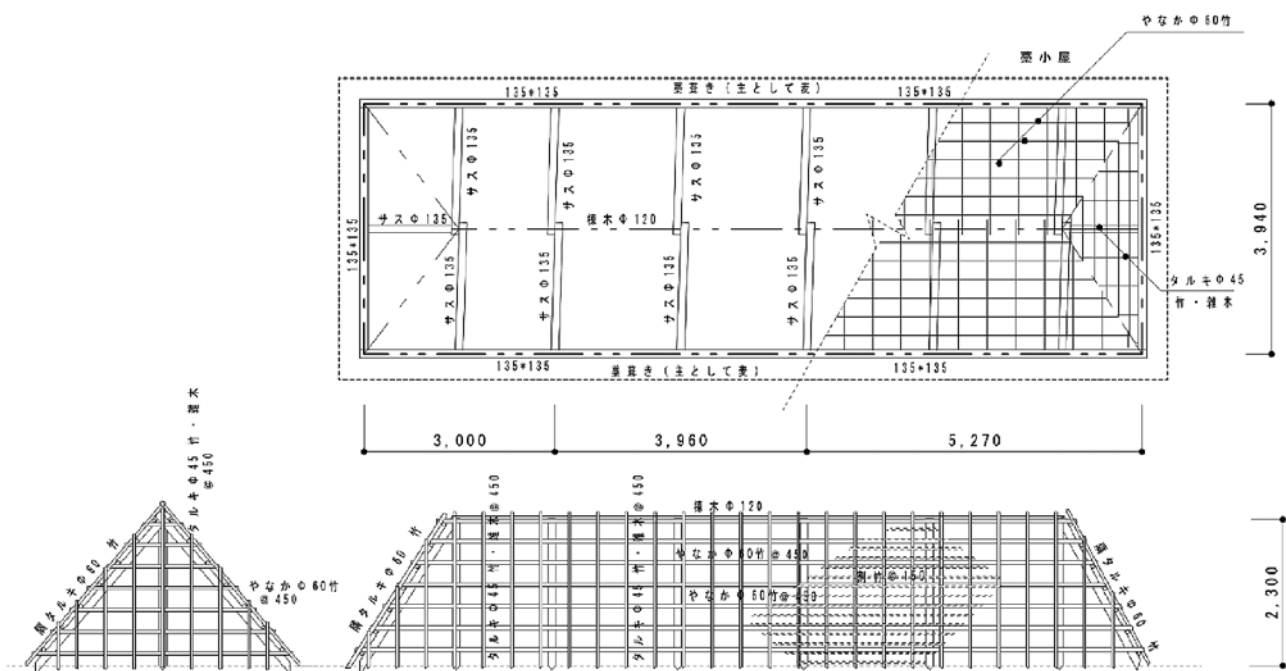
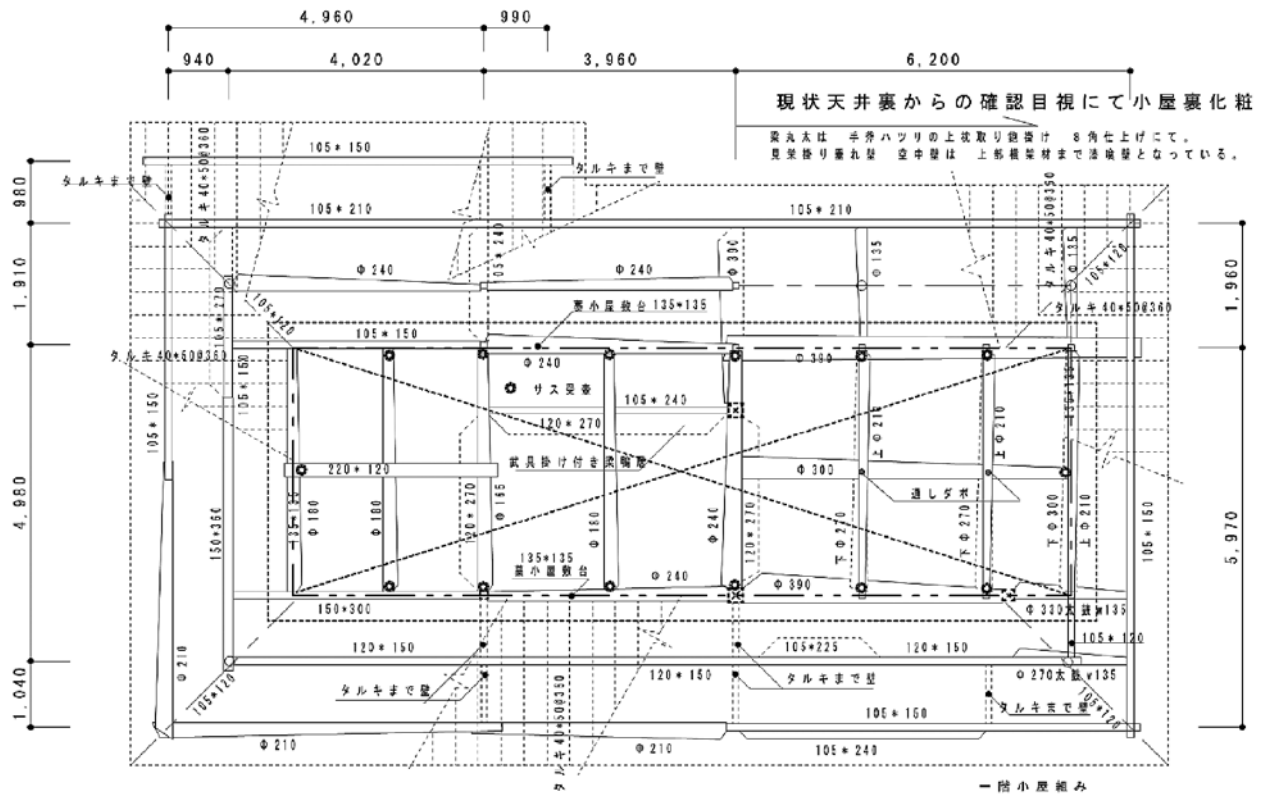
令和7年 記録時の間取り図

	15.120	8.910	134.719
	3.950	1.420	5.623
	1.020	2.600	2.652
1.200	2.220		
3.420	0.51	1.710	9.170
			15.681
			158.675
			47.999

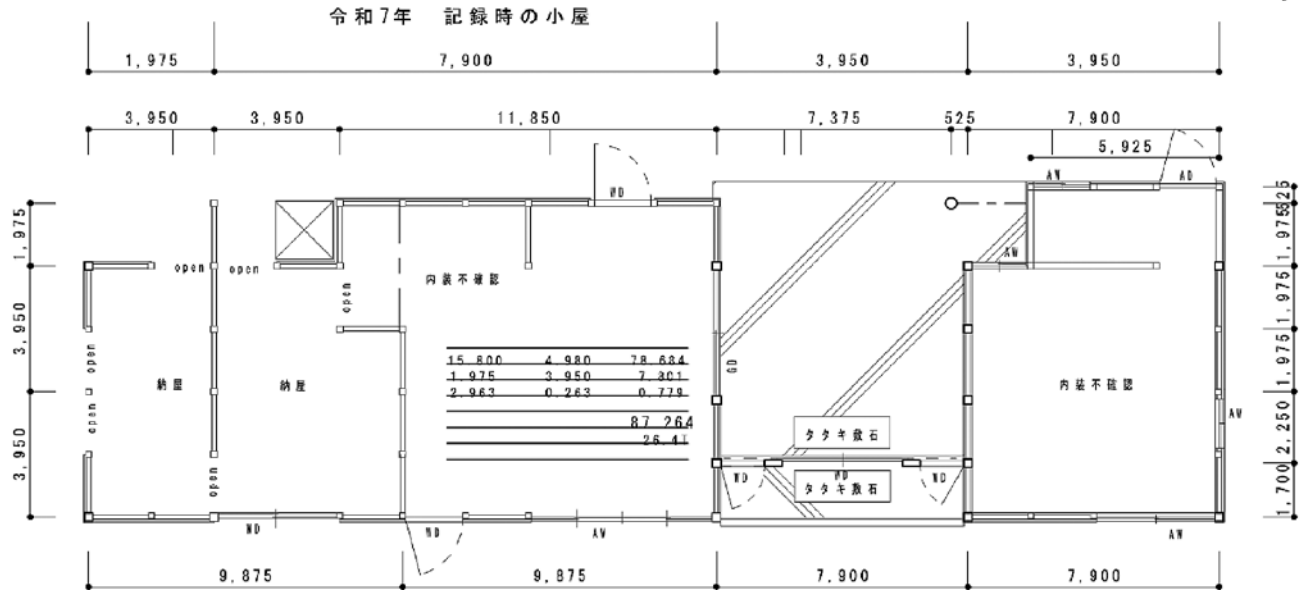
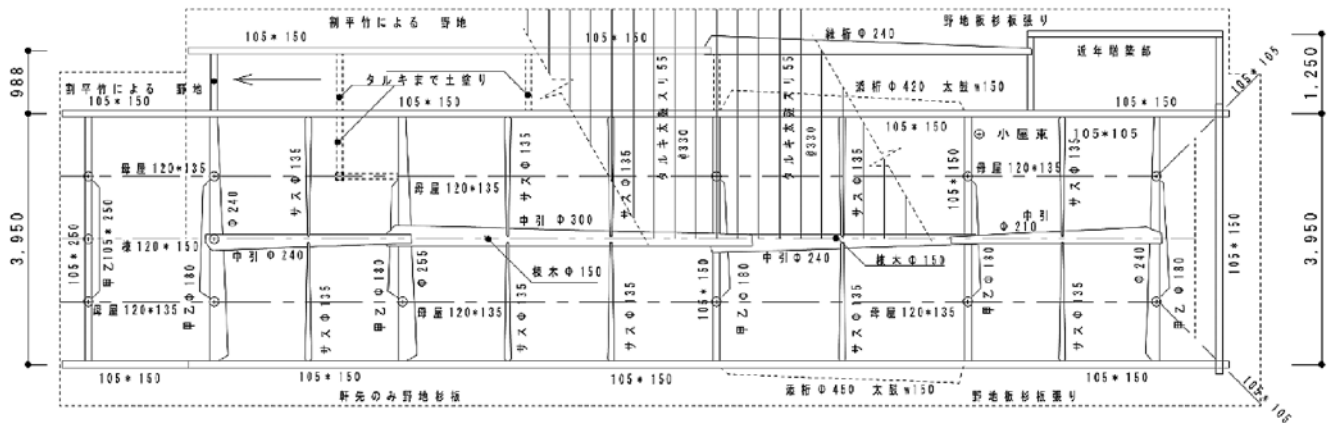
推測



調査時 現況 ^{オリジナル外装}北立面

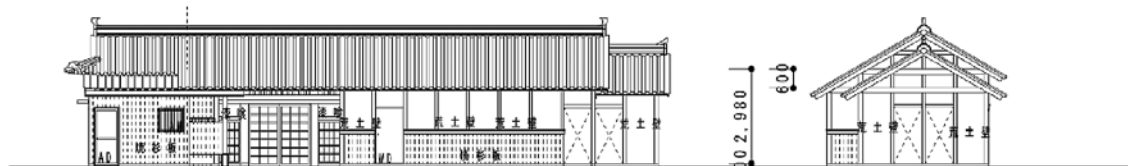


現況にて 確認できる 建設当初の小屋伏せ図



令和7年 記録時の立面南

令和7年 記録時の立面東



令和7年 記録時の立面北

令和7年 記録時の立面西

愛媛の登録有形文化財 久保家住宅(松山市道後湯之町)

文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹

概要 今回紹介する久保家住宅は、道後湯之町にある明治期から大正期にかけて建てられた元医師住宅である。道後温泉の玄関である伊予鉄道後温泉駅の東に位置する放生園の道を挟んだ南側に建ち、現在はうどんをメニューの中心とした飲食店として営業されている。令和5年に国の登録有形文化財として、「主屋」「離れ」「待合」「表門及び塀」「仕切門及び塀」の5件が登録されたが、今回は久保家の中心的な建物である、主屋を紹介する。



▲久保家全景 右奥の大根屋が主屋 左の2階建は離れ

久保家の沿革 愛媛県松山市五明出身の久保彦治は「日本の近代医学の父」と言われる北里柴三郎博士のもとで医師になるため研鑽を積んでいたが、大分県臼杵市二王座出身の柳井祥子と明治27年(1894)、北里博士の媒酌で結婚した。二人はこれを機に久保氏の郷里松山に帰郷し、道後温泉駅(明治28年開業)の東側の約600坪を購入し、入院設備のある病院と住宅を建設した。主屋はこの時の建築と推定される。

夏目漱石が松山中学の英語教師として松山に滞在していた明治28年4月から29年3月までの1年の間、少しでも具合が悪いと、当時としては珍しかった女医の祥子に診察してもらうため、足しげく久保医院へ通ったとの言い伝えがある。

漱石没後、『吾輩は猫である』の挿絵作家の中村不拙や、鎌倉の円覚寺管長で漱石の禅の師で、葬儀の導師を引き受け戒名も授けた釈宗演といった漱石ゆかりの文人も、この家を訪れ書を残している。

そのほか、久保彦治と親交のあった後藤新平伯爵(医師・官僚・政治家)も道後を訪れた際、久保家に立ち寄り書を残した。また、裏千家十四代 碩叟宗室 淡々斎を招いて、茶室開きを催したと言われている。

大正3年には東に隣接地を取得し、子どもの勉強部屋として「離れ」を建設したと伝わっている。

主屋の建物について 木造平屋建て、寄棟造り、桧瓦葺きで、四周に同じく桧瓦葺きの下屋を廻らせている。外壁は真壁とし、鼠漆喰で仕上げられている。

北側正面の西寄りに檜皮葺き屋根を銅板一文字葺きで覆った、むくり破風の玄関を開く。独立柱には、道後温泉本館の又新殿を思わせる、杢の良材が使われている。玄関西側の北端は茶室として意匠が整えられており、丸太柱を現しとした鼠漆喰塗籠の壁に、銅板葺きの庇を掛け、躍り口と下地窓2か所、竹格子窓1か所を備えている。



▲式台付き玄関 右は茶室の躍り口 左に脇玄関が見える

一方、玄関東側には脇玄関の引き戸と、入側にガラス窓が配されている。このガラス窓には仕切門の南塀が取り付け、表空間を隔てている。塀より東側は縁側にガラス戸が入れられているが、当初は雨戸だったと考えられる。

東面は、下屋の下に更に屋根を差し込む形で廊下が増築されている。中央に手洗い、便所を設け、両脇はガラス戸としている。手洗い東面には丸窓と格子窓、基礎上には明かり取りを設けており、実用的でありながら意匠をこらしている。

南面には、中央東寄りに1間半角の部屋が増築されている。増築部より東側の建具は、(正面東よりと同様?)、アルミサッシに取り替えられているものの、上部には当初の格子欄間が見られ、縁側として使用されたことがうかがえる。増築部より西側は、平成9年(1997)の増築部の解体と補修によりアルミサッシとなっている。

西面は、昭和47年(1972)に水屋以南が解体され

た後、プリント鋼板により補修されている。解体部は下屋底が半分の位置で切断され、中央部の洋式応接間に架かる切妻屋根の妻壁が見える。

内部は、式台付きの玄関を入ると6畳の表玄関、同じく6畳の次の間と続く。次の間は南東の半間が押入れに改修されている。表玄関の西北には2畳台目の茶室、半畳の水屋が配されている。茶室には、北面の東端に蹴り口が設けられ、南面東に踏み込み床が置かれる。茶室南壁は両開きの襖扉になっており、内部には南方両開きの洋風扉が隠されているが、現在開くことはできない。茶室西側の水屋には、西向きの勝手口が備えられている。茶室の南側、表玄関の押入の西奥は、次の間の西面北側が入口となる洋式応接間となる。洋式応接間には下屋を寸断する形で、棟が東西方向の小屋が組み、天井を高く取っている。面積は現在13㎡だが、当初はさらに西に広がったと考えられる。洋式応接間の南の寝間については、現在北側に床の間を置く洋室となり、東面南側の入口で板間と繋がる。この南面については、平成9年の解体と補修により旧状が失われている。



▲洋風に改築された応接間

北面中央に位置する脇玄関は、2畳大のたたきから板間に上がる。板間は当初は畳敷であったと伝えられている。南面の壁には、蝶が羽を広げたような大きな開口があり、向こう側に障子を入れている。脇玄関の東側には3畳大の入側が配され、東の縁側と客座敷へと繋がっている。脇玄関と入側の南は、床と間仕切りが取り払われ、12畳分の厨房スペースになっているが、当初はそれぞれ西側に押入がついた四畳半2間であった。

客座敷は8畳で、東面の北に床の間と付書院、南に天袋と千鳥棚を備えた床脇を配する。北壁には障子欄間を、南壁には松に朝日を主題とした彫刻欄間を備える。客座



▲客座敷 飲食店の客席として利用

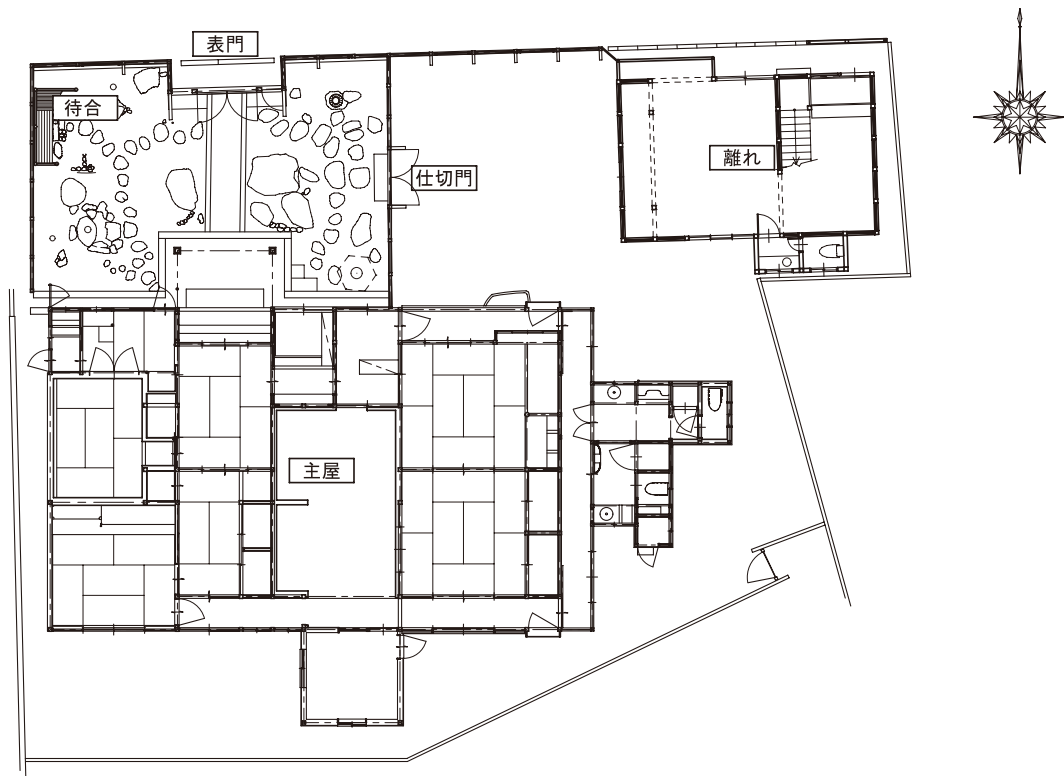
敷の南は8畳の次の間となり、東面には押入れを備える。次の間南壁には、壁抜き欄間が備えられている。

客座敷の北側と次の間南側は縁側となっているが、東面は先述の増築された廊下が付き、北寄りの東側には洗面手洗いが配される。廊下西面の柱には、表面に風食が見られ、一定期間外部に露出されていたとみられる。また、廊下東壁の柱は細く材種も異なり、配置も母屋の柱筋と一致しない。これらのことより、廊下部分と手洗いは後世の増築と判断できる。増築の時期については、明確ではないが、昭和30年代に離れを賃貸する際に、主屋と離れをつなぐ渡り廊下を撤去したと伝わることから、この頃に改修したと推測することができる。

東に張り出した手洗い部分の北側の約7.8㎡が男子用洗面・便所となっている。西側の約4.5㎡が廊下と同時に設けられた空間で、北壁西側に手洗い、東側に収納棚が備えられている。東側の約3.3㎡は令和元（2019）年の改修時に、さらに増築されたものである。南側の約6.2㎡は女子用洗面・便所として使用されている。男子用洗面・便所と同様、改修されているが、南面の洗面には当初の意匠が残されている。

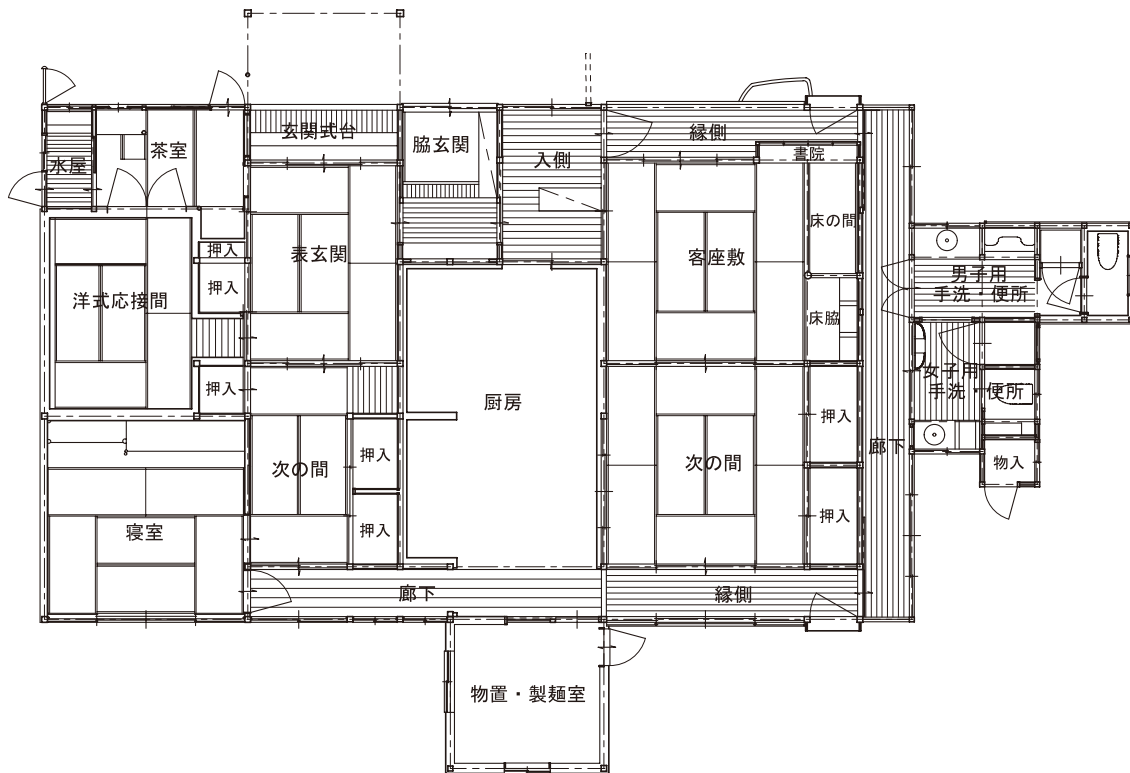
終わりに 登録申請のときに協力した「所見」を基に作成したため、少し説明の多いわかりづらい文章になったかもしれませんが、図面や写真を見ながらぜひじっくりお読みいただきたいと思います。

建物を「維持」するための「活用」によって、改築されることはやむを得ないかもしれません。この久保家の主屋も例外ではありませんが、現在建築当初の部材や意匠が残っているところは、極力現状を維持しながら多くの人に見ていただき、次の世代に受け継いでいってほしいと思います。



全体配置図

0m 5m



主屋平面図

0m 5m

久保家住宅(松山市道後湯之町)

令和7年度活動報告

文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和

令和7年度事業について

令和7年度は2年ぶりに景観写真コンテストをすることとなり、それをメインに木のまちづくりから「木の勉強会」、空き家まちづくりから「伊予市遊び場プロジェクト」、歴史まちづくりから「古建築調査」など、様々な企画が挙げた。木の勉強会ではZOOM会議などで県の補助金や新しい耐震パネルの紹介、CLTについて話し合いがもたれたが、イベントを行うまでには至らなかった。愛媛の林業や身近に感じる木材などを勉強できるように次回につなげていきたい。伊予市遊び場プロジェクトでは令和6年度に行った子供たちへのワークショップを生かしていくように考えたが、時期も難しく下準備に時間がかかり、今後どのような方向性で進んでいくかという話し合いに終わった。今後も日本建築家協会との共同で行っていく予定である。

登録有形文化財をより知っていただこうと、紹介や活用について東・中・南予の委員でそれぞれ地域を担当しながら会報いしづちへの報告も行った。

古建築調査は点在する個人の窯や砥部焼文化の中心として活用していくために「村の駅五本松」の調査を行った。建物は瀬戸内によくみられる四方蓋の茅葺民家で、昭和初期の様相である。「村の駅」としてカフェのような感じで以前より活用をされていた。現在は所有者の方が入院され空き家状態となっており、茅など傷みが激しい状態であった。場所や土地の広さは問題ないが今後どのように保存活用していくか、金銭面が課題であると感じた。今後も報告をしていきたい。(いしづち2026年3月号報告)



▲ 村の駅五本松の座敷。雨漏りによって床が傷んでいる。

建築文化市民講座は今治市波止浜で行い、参加者は20名であった。地元で育った曾我部副委員長の丁寧な説明に、参加者・士会関係者とともに楽しく街歩きをすることができた。元松山藩で塩業の盛んな町であった名残を感じた。令和8年度は南予で行う予定である。(いしづち2026年5月号報告)



▲ 参加者へ説明を行う曾我部副委員長

じた。令和8年度は南予で行う予定である。(いしづち2026年5月号報告)

令和7年度の最大のイベントは景観写真コンテストであった。実行委員と何度も話し合い、また北村審査委員長の意見も取り入れ、前年度の反省も生かしながら要綱を作成した。しかし、始まってみるとSNSを利用した前回とは違い、作品が全く集まらず、12月の締め切りを令和8年5月15日まで延長せざるを得なかった。途中、企画の中止も考えたが、精いっぱいやることを決め、新聞社などに声掛けをしたところ、最終的に37名から計108作品の応募が集まった。

5月20日に選考会を行い、特賞5作品、入賞5作品を決定した。審査員は尾藤会長・松山副会長・花岡委員・北村審査委員長をはじめ、委員会から委員長の峰岡、曾我部副委員長・久保副委員長・和田委員・酒井委員が参加した。一人10点を選び、合計点の高いものから特賞とした。審査委員長賞のみ北村氏が独自で選出した。入賞は次点から順に選出した。選出のポイントには建築がメインになっている写真というだけではなく、景観や文化を感じられるものを選出することとした。



▲ 審査の様子。会議室いっぱい並べられた写真▲

様々な地域性や文化を感じる写真が多く、時間を忘れ審査を行い、愛媛も広いのだと写真を選びながら様々に感じた。数多くの作品のご応募に深く感謝申し上げたい。なお、特賞の受賞者は令和8年度愛媛県建築士会総会にて授賞式を行う。その後特賞・入賞作品と優秀な作品60点ほどを選び、後日写真展を行う予定である。

特賞5本点（会長賞・副会長賞 × 2・審査委員長賞・文化財まちづくり委員会賞）

会長賞



▲「予讃線肱川橋梁」 石山正昭

副会長賞



▲「不老庵と紅葉」 渡部清隆



◀「山里晩秋」 黒河孝俊

審査委員長賞



▲「茅葺き技術の伝承」 西田雅史

文化財・まちづくり委員会賞



◀「階段から見下ろした景色」 川田聡真

入賞作品5本



▲「リボーン(M35 S53)」 矢野房義



▲「町家晩春の静寂」 市兼正則



▲「煉瓦橋」 一ノ瀬佳緒理



▲「雲裂く月、浮かぶ城」 福永蓮



▲「早起きのご褒美、プライベート銭湯」 佐藤義恵

そのほか、中四国まちづくり会議・全国まちづくり会議に出席し、情報交換・交流を図った。

ヘリテージマネージャー協議会ではスキルアップ講座を3回（東予・中予・南予各1回ずつ）行った。調査方法や、保存活用計画の策定、改修方法など、各回スキルアップにふさわしい実践的な内容であった（いしづち2026年1月号報告）。また、登録有形文化財へ向けた建築物の調査なども行っており、一般の方々への周知や行政との連携も取れ始めてきた。四国内でヘリテージマネージャーのネットワーク形成もできつつあり、今後、災害時の連携も含めて深く話し合いができればと考えている。また、来年度は第5回目となる養成講座を行う予定である。



▲座学・現地でのスキルアップ講座の様子▲

令和7年度に行えた委員会の企画は、計画した内容の半分程度となってしまった。仕事をしながらの委員会活動なので難しいことも多いのだが、今回の反省を生かし、令和8年度は新しい委員の力も借りながらより委員会活動を広げていけるよう努力したい。また、中四国まちづくり会議は隣の香川県で行われる。全国会議とは違って顔の見える身近な会議である。多くの委員が参加できるよう声掛けを行うとともに連携が取れるよう情報交換を行っていききたい。

令和7年度活動報告・ 令和8年度松山支部総会報告 令和8年度西予支部報告

令和7年度松山支部活動報告

松山支部 支部長 井上 竜治

前年同様に活発な活動を行うことができました。

まず、前年に引き続き建築士の日の行事として、子供たちと住宅模型を作る「家づくり体験」は子供たちの想像力を活かしたアイデアいっぱいの模型が完成し、笑顔があふれていました。



夏の支部会員の集いと称したビアガーデンでの懇親、研修バスツアーとして尾道への小旅行、地区対抗ボウリング大会&懇親会など、たくさん開催することができました。

また、本会行事にも積極的に参加しました。全国大会(大阪大会)に松山支部から19名が参加しました。

また、県の青年委員会主催のソフトバレー大会には松山支部から3チームが参加し、Bチーム：3位、Aチーム：4位、Cチーム6位と健闘し、ケガもなくさわやかな汗をかきました。

以上、令和7年度の支部活動報告をさせていただきました。



令和8年度松山支部総会報告

1. 日 時 令和8年4月30日(木) 18:15~18:45

2. 場 所 ネストホテル松山 2階 ネストホール

3. 出席者 出 席 292名(委任状235名)

4. 黙とう 物故者 2名

5. 開 会

◎松平副支部長事より、松山支部正会員477名中、出席292名(委任状含む)で、本総会は支部規約第15条第1項に定める定足数の3分の1以上が出席しており、成立している旨の報告をした。

続いて、支部規約第9条第1項の規定により、花岡支部長が議長となり審議を進めた。

6. 議 事

第1号議案 令和7年度事業報告の承認について

議長より、令和7年度事業報告について、総会資料に基づき説明した。

第2号議案 令和7年度収支決算の承認について

議長より、令和7年度収支決算について、総会資料に基づき説明した。

徳永監事が監査報告を行った。

◆議長より、第1号議案、第2号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

ここで役員改選のため、和泉理事を仮議長に選任した。

第3号議案 令和8・9年度役員の選出について

3月25日開催の役員選出委員会にて選考された案を提示し説明を行う。

◆仮議長より、第3号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

井上新支部長が議長となり、審議を進めた。

第4号議案 令和8年度の事業計画の決定について

議長より、令和8年度の事業計画(案)について、総会資料に基づき説明した。

第5号議案 令和8年度の収支予算の決定について

議長より、令和8年度の収支予算(案)について、総会資料に基づき説明した。

◆議長より、第4号議案、第5号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

第6号議案 その他

本年4月に開設された、愛媛大学建築、社会デザインコースに100万円を、本会を通して寄付することが承認された。

以上、議案の審議等を18時45分に終了した。

功労者表彰、感謝状贈呈を行った。(総会資料11頁)

功労者表彰：武智 良太 氏

感謝状贈呈：井原工業(株)松山支店、

小松ウォール工業(株)松山支店

このように活発に活動を行ったことにより、令和7年度の収支決算は、ほぼ予算通りとなりました。花岡元支

部長のようにユーモアのあるダジャレを言って、会員の皆様を和ますことはできませんが、しっかりと後を引き継ぎ、今年度も切り詰めるところは切り詰め、活発な活動ができるように頑張っていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

松山支部長就任挨拶

このたび、4月30日に開催された建築士会松山支部の通常総会において 松山支部長を拝命いたしました井上竜治です。大変微力ではございますが、皆さまのお力をお借りしながら、支部活動の発展に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私が建築士資格を取得し、建築士会へ入会したのは今から約30年前になります。当時は、「建築を通じた仲間を増やしたい」という思いが強くありました。実際に活動へ参加する中で、年齢や職場を超えて多くの出会いがあり、悩みを相談できる仲間や刺激を与えてくれる仲間が増えたことは、私にとって大きな財産となっています。

一方で、近年は会員の高齢化や若手建築士の入会減少など、建築士会を取り巻く環境も大きく変化しています。

これからは、若い世代が「入ってよかった」「参加して楽しい」と感じられる活動を増やし、仲間づくりの輪を広げていきたいと考えております。

しかしこれは、私一人頑張ったところで活動が活発になるわけではありません。会員の皆さまと共に、多くの方が参加できるような温かい支部づくりに取り組んでまいりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



令和8年度西予支部総会報告

西予支部事務局 渡辺 建文

開催日時：令和8年5月14日(木)

総 会：18:00~18:45

懇 親 会：18:50~21:30

会 場： 野村町「居酒屋 権の蔵」

参加者内訳：会員12名（27名の内）

ご来賓(支部顧問)：愛媛県議 兵頭竜 氏

：西予市(代理)大塚洋平 氏

例年通り、支部総会を無事開催出来ました。

現在、支部の弱小化により、存続の危機が迫っているように、感じています。会員増強もままならず、行事参加する者は限られている状況です。

本年は、役員改選（交代）の年でしたが、支部長適任者がいない状態でした。そんな折、建築士会副会長の松山清さんが受けて下さる事になりました。

総会議題は、問題も無く承認されました。

総会が無事終わり、懇親会を開催しました。ほんとに美味しい料理でした。



▲ 懇親会風景

事業計画

建築士の日行事：「伊予遍路道（国史跡）探索」

開催予定日：令和8年7~8月ごろ

募集範囲：会員（準・賛助 含む）

一般・興味のある方（無制限）

内容：43番札所・明石寺から44番札所・大寶寺に至る《伊予遍路道》(88札所廻りの内、3番目に長い区間)の内、明石寺・熊野神社鳥居から御篠山の尾根を越え、卯之町（中の町）に至る約755mが、「国史跡」認定されている【古道】を歩き「有形文化財」認定の【明石寺】の見学。夏開催は、心地良い【古道】だと思います。



▲ 43 番札所 明石寺



▲ 明石寺本堂（有形文化財）

読者の声

花の木 野本 博隆

2026年5月号の合田様の記事に「いいね！」を送りたくての投稿です。

今の時代、古くなってしまった建築物が大切か否かは、関係者の主観と事情が決定付けてしまう傾向にあり、なかなか部外者は立ち入り辛い状況にあります。「お宝お宝！」と騒いで踊って舞えば世間が振り向いてくれることもあります。変な世の中です。

10ページ後半からの「いち大工である私が…」、そこに私がいつも不満に思っていた事が述べられていて、同じ様な考えの方がいらっしゃる事に少なからず安堵を覚えました。「いち大工」かっこいいです。大工でなければ、いえ、大工にしか見えない事言えない事たくさんあると思うのです。机上の理屈や博識等空論とは言いません

んが、自分を安全圏に身を置いた理想論だと。それもある面大切ですけどね。日本のお家は大工さんにかかる要素は大きいのです。木の癖を理解し、木目の流れを読み、逆目になる筋目もカンナの調子で抑え込み、ノミが食い込む断筋を読み……技能の深残はあれ、そうやって繰り返し造形が継承されて来た、だから、大工職は建物の声を一番身近に聞ける動物としての人という生物なのかなと思っております。

「いしづち」の記事は役員さん達の活動報告が、行ったぞ、やったぞ、催したぞと載せられるものと思っておりました。私、ずっと何十年も。残念ながらつまらないので読んだ事なかったのですが、ふと目に止まった記事で初めてほっこりいたしました。ありがとう。

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛 FAX 089-948-0061

編集後記

5月中旬に特別名勝栗林公園にある建築物きくげつてい「掬月亭」に訪れました。掬月亭は南湖の西岸に建つ、大きめの休憩所といった建物。5棟の建物がつながった木造平屋の建築で、床面積は合計129坪、畳は160畳、雨戸128枚というスケールです。外観からは壁が少ないこと、高さを押さえていることが分かります。屋根は、こけら葺きで寄棟造。屋根の角度がそろっている点に秩序だった美しさを感じます。この屋根の角度は背景の山ともほぼ一致している様に感じました。これが、調和を感じる一因かもしれません。

掬月亭は庭との繋がりも興味深いものがあります。掬月亭には玄関がありません。代わりに建物ほぼ全周にある縁側に向けて、数か所から飛石の路がついています。水と緑と岩の庭は、主客は池を舟で横切って上陸することを前提にしている様です。

掬月亭の主となる二の間は、池や庭に面して遮るものなく全解放された空間となっています。戸廻しという仕組みで雨戸と障子の消えた状態なのです。柱と柱の間に立つ障子は、外して片付け、縁側の辺りに立つ雨戸群は次々に水平に引かれて部屋の奥の隅に設けられた戸袋に重ねて収納されています。この解放された室内から外に目をやると、舟の中から眺めているように感じられます。歳を重ねていくと建築に対して感じ方が変わります。



書籍販売のご案内

商 品 名	会員価格 (税込)	一般価格 (税込)
①民間(七会)連合協定工事請負契約約款(約款改正日R7.12月)	990円	1,100円
②民間(七会)小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款(約款改正日R5.2月)	841円	935円
③民間(七会)連合協定リフォーム工事請負契約約款(約款改正日R5.2月)	544円	605円
④民間(七会)連合協定マンション修繕工事請負契約約款(約款改正日R5.2月)	990円	1,100円
⑤四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書(約款改正日R6.8月)	990円	1,320円
⑥四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書(小規模向け)(約款改正日R6.4月)	880円	1,100円
※郵便局レターパックライトにて発送いたします。	送料+430円	

■愛媛の古建築を訪ねて 価格4,000円(税込)

※在庫不足の場合は遅れることもございます。

愛媛県のような古建築を調査した記録を一冊にまとめました。A4判 473ページ

ご注文方法については愛媛県建築士会ホームページをご覧ください。

<http://www.ehime-shikai.com>

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集しています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。

(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和8年 9月号(172号) 令和8年7月30日(木)

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。
情報・広報委員会

〈いしづち〉2026/7

令和8年7月発行

発行人 会長 尾藤淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061 <http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長／大平 将司 副委員長／渡邊 道彦

編集委員／一之瀬 佳緒理 河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉